

なりたの昔話

第10回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。

【参考文献】コミュニティ成田No.47(1994年4月発行)

乗り捨て御免

江戸時代、多古町には1万2、000石の大名・松平氏の陣屋がありました。市内の遠山地区や中郷地区にはその殿様を題材にした一連の昔話が伝わっています。今回の話はその中の一つです。

◇

その昔、多古の町は馬に乗って通ることはご法度でした。ある日のことです。殿様の乗った馬が突然の物音に驚いて、走り出してしまいました。仰天した殿様、馬の首にしがみついで、「馬を止めろ！」

と叫びますが、家臣はただあわてるばかり。馬は家臣たちを尻目に城下へと一目散。

さて、城下では、突然のひづめの音を聞きつけて、1人の馬喰ばくろうが往来に飛び出してきました。殿様の悲鳴に事情を察した馬喰、両手を上げて勇敢にも馬の前に立ちふさがりました。そして、

「ドウドウ」

と馬をなだめました。するとどうでしょう。馬は一声、ヒヒーンといわなくと、その場に止まりました。さすがに馬喰、馬の扱いは手慣れたものです。

精も根も尽き果てた様子の殿様、やっと馬から降りて気を取り直して言いました。

「その方、乗り捨て御免である」

乗り捨て御免——つまり馬喰はほうびとして馬に乗ったまま城下を通ることを許されたのです。御免とはお上が与える許可のことです。



*馬喰とは、農家から馬や牛を買って、売りさばいたり交換したりする仲買商人のこと。伯楽ともいう。

編集後記

国際交流協会の会員でもあるわたしは、取材を兼ねて数々の行事に参加します。中でも楽しみなのは「世界の料理を楽しむ会」。外国の人たちに出身国の料理を紹介してもらって一緒に作り、食べて交流する会で、過去に取り上げた国は28カ国に上ります。見たことも食べたこともない料理を調理するときもあり、料理の出来具合はさまざま。3月24日はベトナム料理です。皆さんも料理を通して異(胃)文化交流してみませんか。

平成25年3月15日号/月2回 1日・15日発行/編集発行：成田市役所企画政策部広報課 〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地 電話0476-22-1111(大代表)

平成25年3月15日号 No.1239

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。